

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	浜松市新清掃工場及び新破砕処理	階数	地上7F
建設地	静岡県浜松市天竜区青谷1461番地	構造	SRC造
用途地域	指定無し	平均居住人員	74人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,500時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年3月 予定	評価の実施日	2021年5月10日
敷地面積	434,952 m ²	作成者	土肥 歩
建築面積	11,347 m ²	確認日	2021年5月31日
延床面積	26,398 m ²	確認者	08045-24 土肥 歩



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

92 (kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.6

LR のスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
一般市民が使用する管理棟ゾーン、一般搬入用受入ゾーンと、施設作業がメインの清掃・破砕処理ゾーンを分離し、利便性・安全性とともに周辺環境に配慮した配置計画としている。建物外観はアースカラーを基調とした彩度を抑えた配色とし、建物高さを低く抑えて周囲の山並みとの調和を図っている。	0	
Q1 室内環境 外部に面する開口部には遮音等級T-2となるサッシや鋼製扉を採用して内部への騒音を防止している。室内の科学汚染物質についてもF☆☆☆☆の製品を全面的に採用してシックハウス対策を考慮している。	Q2 サービス性能 事務室他居室の天井高を2.7mとして圧迫感を低減している。窓を設けることで開放感も確保しており、執務スペースとしての作業環境のグレードを高めている。構造計画においても重要度係数を1.25とすることで大地	Q3 室外環境(敷地内) 植栽は郷土種を配置することで、周辺環境に調和した計画としている。管理棟東側には一般市民が散策する緑地や築山を設け、環境配慮と地域住民の親しみやすさを両立している。
LR1 エネルギー ごみの焼却熱によりタービンを回転させて発電している。電気は施設内施設への供給と売電により地域に還元している。	LR2 資源・マテリアル 管理棟屋内や緑地に、浜松市天竜区の間伐材を用いた仕上げ材や、屋外ベンチを設置し、地域資源の有効活用を計画している。	LR3 敷地外環境 ごみの焼却後の排ガスについては、様々な設備により現行の排出基準より大幅に低い大気汚染物質として処理している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要			
建物名称	浜松市新清掃工場及び新破砕処理センター施設	BEE	1.5 BEEランク
		A	★★★★

2. 重点項目への取組み度			
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.3 /5		ふつつ
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.9 /5		ふつつ
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	4.4 /5		よい
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.1 /5		ふつつ
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4点以上	ふつつ 3点以上
			がんばろう 3点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	3.3	
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①事務室にはLow-eガラスを採用。 ②事務室は両面に窓を設置。 ③窓にはブラインドを設置。 ④主要内装仕上げ材の更新必要間隔は20年以上とした。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤敷地内の残置森林や緑化により、外構緑地指数60%以上を確保した。 ⑥敷地内舗装面積を5%程度と小さくするように努めた。 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦BPI=0.86とした。 ⑧太陽光・風力のハイブリッド照明を設置。 ⑨LED照明の採用。 ⑩主用途のごみ焼却場全体で運用管理体制を構築。 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪節水コマと節水型便器を採用 ⑫再生クラッシュランや溶融スラブの活用。 ⑬接着剤・シーリング等をに汚染物質の含有がないものを採用する。 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④ Q-3 1 ⑤ 3 3.2 ⑥ LR-1 1 ⑦ 2 ⑧ 3 ⑨ 4 4.1 ⑩ 4.2 ⑩ LR-2 1 1.1 ⑪ 1.2 1.2.1 ⑪ 1.2.2 ⑪ 2 2.1 ⑫ 2.2 ⑫ 2.3 ⑫ 2.4 ⑫ 2.5 ⑫ 2.6 ⑫ 3 3.1 ⑬ 3.2 3.2.1 ⑬ 3.2.2 ⑬ 3.2.3 ⑬ LR-3 1 ⑭ 2 2.2 ⑮	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 ⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑩ 運用管理体制 ⑪ 節水 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 ⑫ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑫ 材料使用量の削減 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 ⑬ 消火剤 ⑬ 断熱材 ⑬ 冷媒 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
	"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	3.9
	<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑯重要度係数1.25採用。 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑯ 免震・制振性能 ⑰ 空調・換気設備 ⑰ 給排水・衛生設備 ⑰ 電気設備 ⑰ 機械・配管支持方法 ⑰ 通信・情報設備	
	"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点	4.4
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑱⑲建築物移動等円滑化基準を満たしている。 ⑲階高5m以上。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) <ul style="list-style-type: none"> ㉑内装仕上げ材に地元の天竜木材を活用する。 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ⑳	⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 ⑲ 階高のゆとり ⑲ 空間の形状・自由さ ⑳ 地域性への配慮、快適性の向上		
	"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	3.1
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/㉒まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑤敷地内の残置森林や緑化により、外構緑地指数60%以上を確保した。 ⑥敷地内舗装面積を5%程度と小さくするように努めた。 ■敷地外環境対策 (⑫持続可能な森林から産出された木材/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑫天竜木材のFSC認証材を活用する。 ⑮敷地周辺部の残置森林により、敷地外への熱的な影響を低減。 	Q-3 1 ⑤ 2 ⑥ 3 3.2 ⑥ LR-2 2 2.5 ⑫ LR-3 2 2.2 ⑮	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ まちなみ景観への配慮 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 ⑮ 温熱環境悪化の改善		